



今日のトピック 中国主要経済指標の伸びはやや鈍化

伸び率は鈍化しつつも、中国経済は順調な回復へ

ポイント1 鉱工業生産は+9.8%

小売売上高は+17.7%

- 中国国家统计局は17日、主要経済指標を発表しました。4月の鉱工業生産は前年同月比+9.8%となり、前月の+14.1%から伸び率が鈍化しました。品目別の生産量をみると、コロナショック以降需要が増えたコンピューター(+13.5%)や産業用ロボット(+43.0%)などが高い伸びとなりました。
- 4月の小売売上高は前年同月比+17.7%と、前月の+34.2%から伸び率が大きく鈍化し、市場予想の+25.0%を下回りました。業種別にみると、新型コロナウイルスの影響で前年に低迷した反動で飲食業は+46.4%と高い伸びでしたが、前月の+91.6%からは減速しました。

ポイント2 固定資産投資は+19.9%

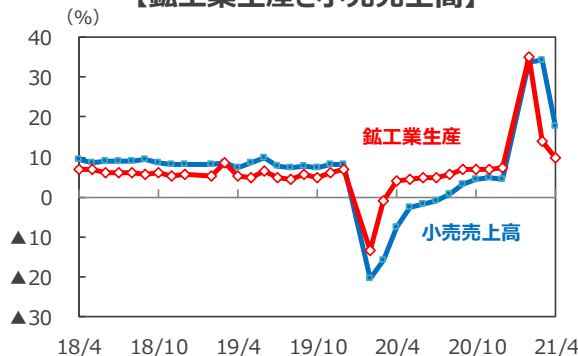
民間投資は+21.0%

- また、1~4月の固定資産投資も前年同期比+19.9%と、1~3月の+25.6%から伸び率が鈍化しました。内訳をみると、約6割を占める民間投資が+21.0%、インフラ投資は+18.4%となり、それぞれ前月から伸び率が縮小しました。

今後の展開 中国経済の順調な回復から中国株は堅調さを取り戻そう

- 4月の主要経済指標はいずれも前月から伸び率が鈍化しました。これは、中国が新型コロナウイルスの感染抑制にいち早く成功し、経済活動の早期回復を実現したことで、昨年4月には多くの指標が大幅に改善していたためです。今後も中国経済は前年比でみた伸び率は鈍化しつつも、順調に回復を続けるとみられます。
- 主要指標の発表を受けた17日の中国株式市場は、順調な景気回復との見方から、MSCIチャイナなどの株価指数が上昇しました。このところ米中対立などから株価が調整していますが、バリュエーションは予想PERで15倍割れに低下し、割高感が後退していることから、株式市場は堅調さを取り戻すと期待されます。

【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2018年4月~2021年4月、前年同月比。(年/月)

各年2月のデータは1~2月の年初来累計の前年同期比。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【MSCIチャイナと予想PER】



(注) データは2018年1月1日~2021年5月17日。(年/月)

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2021年4月20日 運用者の視点：中国起業家の『早期退任』

2021年4月19日 中国のGDP成長率は+18.3%、コロナの反動で過去最高

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。